



【業界初】自動車事故の原因調査に「画像解析フォレンジック」を本格導入

2020年3月23日

MS&ADインシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社(社長:金杉 恭三)は、自動車事故の調査を委託している、あいおいニッセイ同和損害調査株式会社(社長:山名 学)に、業界初^{※1}となる「画像解析フォレンジック」を2020年4月より本格導入することとしました。

※1 2020年3月当社調べ

1. 背景

当社は自動車業界の環境変化に先駆け、2018年4月に毎月の安全運転の度合いを保険料に反映する国内初の自動車保険「タフ・つながるクルマの保険」を発売するなど、テレマティクス自動車保険^{※2}の開発を通じて様々なお客さまのニーズにマッチした商品を販売しています。

また、2019年4月から、テレマティクス自動車保険を提供する中で得られるデジタルデータ(運転挙動データやドライブレコーダー動画等)を活用したテレマティクス損害サービスシステムの提供を開始し、万一、お客さまが事故に遭われた際にも迅速かつより適切に事故解決をサポートし、誰もが安全・安心に暮らせる社会の実現に貢献することを目指しています。

昨今、自動車事故の原因調査において、ドライブレコーダー動画等のデジタルデータを重要な証拠として取り扱うケースが増加しています。しかし、事故の衝撃等によって動画データが破損した、あるいは、記録されている動画または画像が不鮮明なため事故状況を確認することができない等の理由により、事故原因の調査に活用できない事例も確認されています。

このような状況を受け、当社では2019年4月より「画像解析フォレンジック」のテスト導入を開始していましたが、お客さまニーズの高まりを受け、2020年4月より本格導入することにいたしました。

※2 2020年1月より、後付けの専用ドライブレコーダー型テレマティクス端末で取得した走行データに基づき、安全運転の度合いを保険料に反映する、国内初の新たな自動車保険「タフ・見守るクルマの保険プラス」を発売

2. 「画像解析フォレンジック」の概要

フォレンジックとは、法的証拠を見つけるための鑑識調査や情報解析に伴う技術や手順のことであり、「画像解析フォレンジック」では、識別困難な状態から証拠となる動画/画像データの抽出が可能です。

当社では、法執行機関や警察機関等の調査で多くの画像解析調査の実績を残してきた、リーガルテック株式会社^{※3}の画像解析ツールを活用することで、動画/画像の復元や鮮明化を実施しています。

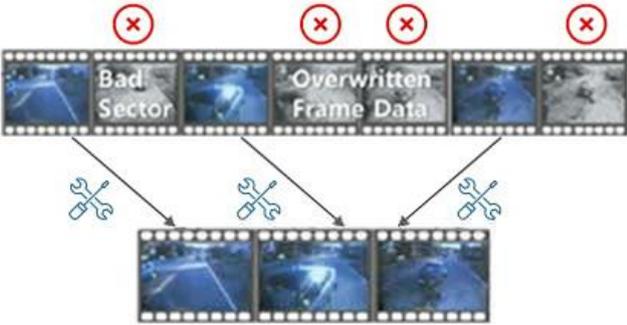
【動画の復元】削除された動画ファイルや破損した動画ファイルの復元、初期化された動画ファイルの復元、

独自システムの動画ファイルの復元など、多くのケースで動画の復元が可能

【画像鮮明化】超解像補正(高解像度化)、ブレ補正やフォーカス補正、角度補正などが可能

※3 リーガルテック株式会社: <https://www.fss.jp/>

なお、これまでに下記のような事例において、動画復元や画像の鮮明化を実施し、事故対応での実績を挙げています。以前は事故原因の調査において活用することができなかったデータを、「画像解析フォレンジック」により証拠データとして活用することで、迅速かつより適切な事故解決につなげています。

再生できない動画の復元事例	画像の鮮明化事例
データ破損によって再生不可能な状態であったドライブレコーダー動画を復元することで、事故時の信号色の確認が可能となった	焦点が合っておらず識別不可能な状態であった防犯カメラ画像を鮮明化することで相手車両の特定につながった
<p>未破損のフレームを集め、動画を再生可能にしています</p>  <p>出典)リーガルテック株式会社</p>	<p>元の画像の焦点の大きさをフォーカス補正で調節し、判別できるレベルに鮮明化しています</p>  <p>出典)リーガルテック株式会社</p>

3. 今般の本格導入について

当社において、2019年4月のテスト導入から2020年2月までの間に、動画復元や画像の鮮明化の調査依頼件数は約5倍まで増加しています。

4月の本格導入に合わせて、当社では解析専任者を新たに配置し、より多くのお客さまに対応できるよう社内体制を整えました。また、拡大が想定される調査ニーズへ迅速に対応するため、解析に使用する機械の台数を2倍に増やすなど、対応体制も強化しています。

4. 今後の展開

今後、当社契約者の事故調査において「画像解析フォレンジック」を活用することで、更なる事故対応サービスの充実を図っていきます。また、MS&ADホールディングス傘下の事業会社間での共同利用や相互補完を検討するなど、グループ全体で、事故原因調査の品質とお客さま満足の向上に努めていきます。

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。



主に貢献しているSDGs目標

